土居伸彰 presents アニメーション・スーパーヒューマン・デー

6月7日 金

やりつづけること……そう、やりつづけること。しつこいくらいに、誰に望まれずとも。なぜならこれこそが、人生でやるべきことなのだから……そういう信念とともに作られた表現は強い。この1日は、新旧インディペンデントアニメーション作家たちの、そんなしつこさに捧げられる。イギリスの巨匠フィル・ムロイによる超ミニマルブラックユーモア個人製作長編「クリスティーズ」シリーズ一挙三本上映、一度体験すれば取り憑いて離れない世界観を持つ日英若手作家6人のほぼ全作上映、フランク・ザッパのコラボレーションでお馴染みのアメリカの超絶粘土作家ブルース・ビックフォードの本邦初公開ドキュメンタリー長編（これもまた壮絶！）と傑作選の三部構成でお届けする、ちっぽけだが情熱的で壮大な各プログラム。（協力：CALF）

第一部
フィル・ムロイ「クリスティーズ」シリーズ一挙上映

イギリス・インディペンデント・アニメーション界の巨匠フィル・ムロイが 2006年から一人コツコツと作りつづける長編シリーズ「クリスティーズ」。制作助成金の減少を背景に、資金が集まりやすく人気も出やすいので長編を作りはじめたとのことなのだが……いったいなぜこんなものが？イヤなやつだらけのクリスティー一家の超ミニマムブラックユーモア家庭劇としてスタートしたはずのこの作品のスケールは、ついには全世界を巻き込み、クリスティー氏がこの宇宙の運命を握るまでに膨れ上がる……いかにもなアクセントで話す日本人ヤカモト、アドルフ・ヒトラー、セックスばかりしているフランス人船乗りやペドフィリアの神父、果ては神様までが登場し、物語の舞台はロンドンからアイスランドへ……完結編となる第4作の完成が迫るなか、フィル・ムロイ渾身の現代的寓話を一挙上映！

ザ・クリスティーズ
12:00〜

自己中心的な紳士クリスティー氏と社会が要求する良識を内面化したクリスティー夫人。反抗的で自分のことしか考えていない息子テリーとその恋人ルーシー。不愉快な彼らのもとにさらに不愉快な登場人物たち――ブルース歌手で幼児性愛者の日本人ヤカモト、例の人間に似たヒトラー氏など――が訪れる。

（2006年／イギリス／80分／フィル・ムロイ監督）

さよならミスタークリスティー
14:00〜

愛欲と見栄まみれの典型的イギリス人紳士クリスティー氏は、あるとき、テレビ中継の真っ最中にフランス人船乗りラモーンとセックスをしてしまい、そして神様になる……

（2010年／イギリス／77分／フィル・ムロイ監督）

死亡以上埋葬未満
16:00〜

物語の舞台はアイスランドへ……クリスティー氏の死体をめぐって世界的陰謀が動き出す。相変わらず胸糞悪い登場人物たちの織りなす他人事ではない不愉快なハーモニーと火山のような欲望の爆発。

（2011年／イギリス／80分／フィル・ムロイ監督）

第二部
日英若手作家作品一挙上映 18:00〜

スーパーヒューマンなアニメーション作品を生み出すヤツらはここ日本にもいる！ 自らの脳内に胚胎させた己のオーディオビジュアルイメージを丁寧に具現化させる彼ら彼女らの実践は勇気と大胆さに溢れ、かわいさ／ちいささがこわさ／おおきさと共存し、マルチユニヴァーサルな世界のあり方を垣間見せる。この日本からの4人の作品に、イギリスの若手2人――他人のことなど知ったこっちゃないと言わんばかりのパンキッシュなアティテュードを繊細な感情描写や知的な狂気のなかに潜ませる作家たち――が加わって、30本以上の作品が詰め込まれた狂気と疾走の70分のプログラムが完成。来場作家による舞台挨拶あり！

※上映プログラム詳細は爆音映画祭HPをご覧ください

ピーター・ミラード

人のことをバカにしてるのかな?と思うような本当に適当な描線で描かれたゆるいキャラクターたちが、こちらも適当なフィールドレコーディング音や子どもの遊びみたいな声にあわせて、衝突したり変容したり…ハルク・ホーガンの生涯を2分間にまとめた『ホーガン』など、「ハズし」の快感に溢れた全11分15作品。知的な狂気。

ひめだまなぶ

誰に頼まれるわけでもなく自ら志願した“うたのおにいさん”ひめだまなぶ氏によるユニークな“みんなのうた”シリーズ、「ようこそぼくです」。タイトルが端的に示すように、圧倒的な自分表現でありながら隙がなく、端から端まで“ひめだまなぶ時空間”を貫き通す圧倒的実力。時に自分自身も実写で登場しながら、ステキな楽曲と奇妙な踊りで楽しませてくれる、“へんてこ”で“てんさい”なひとときを。作家来場予定。

久野遥子

学生作品界今年最大の話題作のひとつ、『Airy Me』。人を人でなくす生体実験の様子を揺れ動くカメラワークで描き出す圧倒的画力が cuushe による静謐な音楽とぶつかるなか、人と人であらざるものとがゆったりと混じりあい、孤独に溶け合っていく。朦朧とした意識で捉えられた世界の姿は決して俯瞰されえず、滑らかにつながりあう断片は圧倒的なリアリティを持つ。遠くの星から偶然受信された映像を観ているようなアニメーションの新しいモード。今回は初期の習作2本とともに上映することで、現代の名作『Airy Me』へとつながる道も明らかに。

ジュリア・ポット

わたしたちが生きるなかで必ず遭遇する、世界の見え方を変えてしまい、体のなかに大きな傷を刻み込むあの瞬間。たとえば、初恋とその終わり。たとえば、親しい人の死。たとえば、まるで世界が滅亡するかのような親密な時間の終わり。私たちに無数に残された傷とその回顧についての物語を、かわいらしくてそっけないキャラクターでコーティングしながら語ってきた新世代のアニメーション作家ジュリア・ポット、日本初の回顧上映。

大島智子

少女的なイラストによる現代の女の子たちの日常的ポートレイトを GIF アニメーションで積み重ねていく大島智子。ソーシャルネットワーク時代の日常が増幅する寂しさや無常感といった、今わたしたちが現在進行形で体験している断片的で強力な感情。そこに潜む非人間性をむき出しにしながら、同時に途方もなくリアルで切実な人間的な感情をも注ぎ込む彼女が手がけた3本のPVを一挙上映。

池亜佐美

キャラクターも自作の音楽もとてもキュートでありながら、小さくてかわいい usa（うさ）たちが無限の舞いを踊るその場所は、光と闇、死と眠り、聖と邪がいっしょくたになって混ざりあう広くて寂しくて冷たい空間でもある。小さいものをみていたはずなのに、いつしか人間的なスケールを超えた「スーパーヒューマン」な何かが呼び込まれ、安心感と恐怖感が奇妙に共存するダークマターの宇宙へと呑み込まれていく体験。作家来場予定。

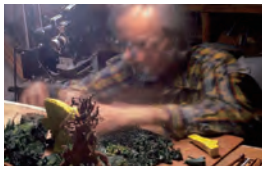
第三部
粘土の偉業　ブルース・ビックフォード特集

シアトルの山奥でひとりコツコツと、粘土で、そして線画で、アニメーションを作りつづける超人ブルース・ビックフォード。一度観れば決して忘れることのないその作風は気持ちよさと気持ち悪さの両方を持ち合わせており、それはあたかも、この社会が要求する法則からは外れつつも、人間の根源に鳴り響くリズムや胎動をダイレクトに反映しているかのよう……本邦初公開のドキュメンタリー長編『モンスターロード』は、その創造宇宙の謎に迫る……ものになると思いきや、アルツハイマー病の父親の大フィーチャーにより、戦後アメリカの通過してきた闇、そして、宇宙や因果といった巨大なる力の波動といったものがビックフォード作品に潜むことを明らかにする。人間が作り出しうるものと、人間が決して作り出しえないもの、その境界線をまたぐ2つのプログラム。

モンスターロード
19:40〜

1970年代、フランク・ザッパの映像作品で活躍し、現在に至るまでカルト的な人気を誇るアメリカのアニメーション作家ブルース・ビックフォード。このドキュメンタリー長編は、ビックフォード本人とその父親ジョージへのインタビューを中心に、ビックフォードの幼年時代、冷戦時代のアメリカにつきまとうパラノイア、ビックフォードと家族の歪んだ関係性といった観点からビックフォード作品を解き明かす。しかし、いつしか話は、人間の生や認識の限界、この宇宙の創造者についての想像といったところまで膨らんでいく。

（2004年／アメリカ／80分／ブレット・イングラム監督）



粘土の偉業
ブルース・ビックフォード
作品集
21:10〜

昨年夏からスタートした上映企画「変態（メタモルフォーゼ）アニメーションナイト」でトリを飾り、観客を無間地獄の阿鼻叫喚に陥れた粘土アニメーションの最新作『CAS' L'』、素敵にドープなサウンドトラックを伴って粘土と同じリズムで変容を繰り返す白黒線画アニメーション『このマンガはお前の脳をダメにする』『インヴァーション・レイヤー』といったお馴染みの作品に加え、言わずと知れた代表作『プロメテウスの庭』を上映する、まさにブルース・ビックフォード傑作選。最後に迫力を持って飛び出す「粘土の偉業」という言葉を目にしたとき、あなたの脳に何かが起こる。

<上映作品>『プロメテウスの庭』『このマンガはお前の脳をダメにする』『インヴァーション・レイヤー』『CAS' L'』

上映作品は予告なく変更されることがございます。あらかじめご了承ください。